

2 工事監査

都が行っている工事等について、計画・設計・積算・施工・維持管理等の各段階で、不経済な支出や不適切な施工がないかなどを技術面等から監査しました。

平成23年工事監査は、下記のとおり実施しました。

● 監査実施状況

	監査実施状況	実施率
件数では	1,786件	11.5%
金額では	3,099億円	23.0%



工事監査の様子

監査の結果

18局・1,786件の
工事を監査し

指摘 32件

意見・要望 2件

指摘金額 約1億369万円

※ 過大積算（26件）の額

主な指摘事項

テレビ放送デジタル化対応工事で増幅器の数量が過大なもの

病院経営本部（指摘金額 624万円）

状況

都立墨東病院で、地上波テレビ放送のデジタル化に対応するための工事を行った際、必要な増幅器の数量を、アナログ放送時と同じ91台のまま設計しました。

指摘

しかし、デジタル化の効果により、増幅器の台数は約60台で足りるものでした。
必要な台数の見直しを行わずに設計していたため、設計金額が約624万円過大になっていました。

× アナログ放送で必要な台数 → ○ デジタル放送で必要な台数

設置済みのトンネル内工事照明の設置費用を見込んだもの

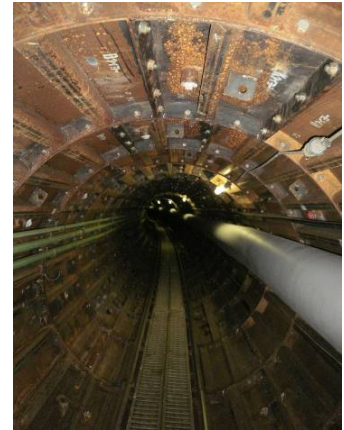
水道局（指摘金額 325万円）

状況

水道局が行った、送水管トンネル内配管及び立坑築造工事では、トンネル内の工事照明設備について、別工事で設置済みであるにもかかわらず、設置と撤去をともに行う費用で積算していました。

指摘

撤去工事のみを行う費用で積算した場合と比べて、積算額が約325万円過大になっていました。



送水管トンネル内部

× 設置 & 撤去 の費用 → ○ 撤去 の費用

仮設土留の崩壊を防ぐ支保材を工事途中で撤去したもの

東京消防庁

状況

東京消防庁は、防火水槽を撤去するため、仮設土留を設置して深さ4.8mまで掘削しながら防火水槽を壊す工事を発注しました。

その際、地上から1m下方の位置に支保材を設置することにしていたのですが、実際の工事記録写真を見ると、工事の途中で支保材を撤去し、その後の作業を行っていました。

指摘

このような状況は、土留の崩壊事故等につながりかねない大変危険なものです。

事故が起きることのないよう、受注者を適切に指導・監督するよう求めました。